

<< 目 次 >>

- ・口腔治療学講座教授就任 3
- ・教授就任挨拶 林 宏行 3
- ・第1回オープンキャンパス実施 4
- ・第38回全日本歯科学生総合体育大会 4
- ・平成18年度 地方父兄会開催 5
- ・平成19年度 入学試験実施要項 5
- ・平成18年度 科学研究費補助金交付
ならびに学内学術研究助成金交付 5
- ・平成18年度 備品調査 9

- ・第14回公開講座（天満橋講座） 10
- ・平成18年度 実験動物慰霊祭 10
- ・学位（博士）授与報告 11
- <トピックス>
- ・中国学術交流の旅 11
 四川大学創立110周年記念式典・南方医科
 大学学術交流協定締結10周年記念式典・・・
- ・人 事 14
- ・あとがき 14



第14回 大阪歯科大学公開講座・天満橋講座（平成18年8月～9月）

口腔治療学講座教授就任

平成18年8月1日付けで、口腔治療学講座助教授の林 宏行先生が教授に就任された。

林教授の略歴は以下の通りである。

口腔治療学講座教授

林 宏行 (はやし ひろゆき)

歯学博士

昭和21年生まれ、60歳

<学 歴>

昭和40年4月 大阪歯科大学入学

昭和46年3月 大阪歯科大学卒業

昭和46年4月 大阪歯科大学大学院歯学研究科
博士課程入学

昭和50年3月 大阪歯科大学大学院歯学研究科
博士課程修了

昭和50年3月 歯学博士学位取得 (大阪歯科大学)

<職 歴>

昭和50年4月 大阪歯科大学助手 (口腔治療学講座)

昭和56年4月 大阪歯科大学講師 (口腔治療学講座)

昭和56年5月 大阪歯科大学大学院助手 (歯内治療学)

昭和61年4月 大阪歯科大学助教授 (口腔治療学講座)

昭和62年5月 大阪歯科大学大学院助教授
(歯内治療学)

平成18年8月 大阪歯科大学教授 (口腔治療学講座)

教授就任挨拶

口腔治療学講座 林 宏行

伝統をつなぐ駅伝ランナー の一人として・・・

大阪歯科大学教授会の選出および法人理事会の承認を得て、平成18年8月1日付けで口腔治療学講座の教授に就任し、講座を主宰していくことに成りました。口腔治療学講座は公選第二代目の吉崎学長に始まり、福地教授、戸田教授と引き継がれてきた本学の



中でも歴史と伝統のある講座です。

前任の戸田先生はアスリートに例えると 42.195km を走破され、その間に数々の素晴らしい記録を打ち立てられたマラソンランナーです。私は駅伝で自分に任された区間を走り切り、次の走者に襷を渡すランナーの一人と考えています。しかし、これとて浅学菲才の身には並大抵ではなく、教職員の皆様のご支援とご協力、時には叱咤激励無くしては叶うものではありません。何卒よろしくお願い致します。

自分で考え判断できる歯科医師の養成

さて、私は昭和50年に母校の大学院を修了して助手に採用され、今日まで30年有余にわたり、口腔治療学講座で基礎・臨床実習に携わり、また本講義の一部を担当してきました。現在では1年生を除いて6年生まで本講義はもとより関連講義、特別講義と補講、基礎・臨床実習、臨床実習直前講義とプレクリニック、また臨床講義、カンファレンス、総合講義など何らかの形で学生達と関わっています。ここ数年日本の大学ではいろいろな面での改革や変革が行われており、本学も学生への講義「カリキュラム2000」を行うべく、平成11年にカリキュラム小委員会が立ち上げられ、2年間にわたり種々検討がなされた結果、現在では学生に統合型カリキュラムに基づいた講義、実習が行われています。ちなみに、私も口腔解剖学や高齢者歯科学の一部分の講義と実習を担当しています。

現在の若者は多様な価値観を有し、歯科医師に成るべく入学して来た本学学生にあっても例外ではなく、将来歯科医師に成る為の心構えと態度、知識と技術を体得させねばなりません。したがって、講義では学生が歯内療法学に興味をもち、積極的に勉学するよう自らの臨床体験を話す機会を多くしていこうと考えています。また、臨床実習では学生が歯内療法の手技を習得しながら、治療を行う対象が患歯ではなく患者であり、術者が患者とコミュニケーションを密にして“For the Patients”に基づいた治療を行うことが如何に必要かつ重要であるかを指導していきたい。平成18年からは学生参加型臨床実習が開始されていますが、21年間の助言教員の経験を活かして、学生との対話を多く持ちつつ、「自分で考え判断し、適切な治療が行える心温かい学生の育成と歯科医師の養成」に努力したいと考えています。

歯科における再生医療を目指して

研究面では、私は大学院生の時に、歯科理工学講座の川原教授に組織培養学を学び、歯内療法で使用する各種薬剤の株細胞への影響について研究しました。この研究はその後講座員や専攻生の研究テーマとなり、また5名の大学院生に引き継がれて今日の歯根膜組織由来培養細胞を用いた研究に至っています。当講座の研究は、歯の硬組織、歯髓組織および根尖歯周組織に生じる疾患の原因、発生機序、治療法およびこれらに関する諸問題について多角的に追究することであり、現在まで種々な観点から最新の方法と機器を使用して研究されてきました。私の専攻分野では「覆髄剤、裏装材、根管清掃剤、根管消毒剤あるいは根管充填剤の細胞毒性に関する研究」、「再植歯保存液の有用性や再植歯に加わる負荷についてのヒト歯根膜培養細胞を用いた研究」があり、また最新の治療機器、薬剤や方法に関しては「根管治療へのレーザー、強酸性水あるいはNi-Ti製ロータリーファイルの使用が治療効果に及ぼす影響」、「リン酸カルシウムの根管充填剤への応用」に関する研究などがあり、根管治療へのレーザー応用では「Nd:YAGレーザー照射の根管治療への応用について」臨床治験を行い、臨床応用への道筋をつけています。

近年、医療の分野では「再生医療への関心」が高まり、不治の病とされていたものにも有効な治療法が見出されつつあります。我々も新たな研究分野で社会的ニーズの高まりを見せている「再生医療に関する研究」を他大学あるいは研究機関と共同で行いたいが、これに先駆け歯髓の再生に不可欠な「細胞の三次元的培養に必要な最適な担体」を見出す研究態勢を整えたいと思っています。現在の若者は自ら研究テーマを考え、実験を進めていくことが苦手のようなのですが、学位は結果として獲得できるものであり、その過程で実験する楽しみ、研究を進めていく喜び、さらに一つの結果を得た時の達成感・満足感など、私はそうしたものを享受できる若手研究者の育成を心掛けたと思っています。

終わりに、大阪歯科大学は95年の長い歴史と伝統をもち、今日まで多くの優れた歯科医師や歯科界で活躍する傑出した先輩達を輩出してきました。21世紀においてもこの様な人材が必要不可欠であり、本学は引き続いてその一翼を担ってゆかねばなりません。その為

に、私は微力ながら責務を果たしたいと考えておりますので、教職員皆様方のご支援とご協力を何卒よろしくお願い致します。



第1回 オープンキャンパス実施



平成18年度第1回大阪歯科大学オープンキャンパスを8月21日(月)午後、楠葉学舎(1号館第1大講義室・2号館4階第8実習室)において実施した。

<日 程>

- 13:30～ 今井学長挨拶
大学概要説明 中村副学長
入試概要説明 豊田教授
- 14:00～ 講義 欠損歯列補綴咬合学講座 前田助教授
- 15:00～ 実習体験 歯科保存学講座 山本教授ほか
- 16:00～ 大学紹介ビデオ視聴
- 16:20 終了

参加者の総数は152名で、その内訳は高校生と卒業生が102名、保護者が50名であった。また、当日実施したアンケートによると、本学の教育および研究に対する理解が深まったとの回答が多く、講義および体験実習が大変好評であった。



第38回 全日本歯科学生総合体育大会



- ・冬期大会：2005.12.23 ～ 2006.3.19
- ・夏期大会：2006.7.29 ～ 2006.8.12

日本大学松戸歯学部が事務主管し、夏期大会は東京・千葉を中心に開催された。

本学の成績は総合で第4位に入賞、部門別ではラグビー・フットボール、ボウリング、アーチェリー、日本拳法、漕艇が優勝し、空手道が第2位、柔道とヨットが第3位と健闘した。

次の第39回大会から規約が改正され、歯学部学生のみならず、歯科技工士・歯科衛生士を目指す学生も参加資格を有することになった。12月には松本歯科大学が事務主管し、冬期大会が開催される。

平成18年度 地方父兄会開催

毎年、夏季休暇中に地方父兄会を開催している。本年度は四国地区(徳島・香川・愛媛・高知)を対象に実施することとなり、平成18年8月19日(土)に香川県高松市にある「リーガホテルゼスト高松」において開催した。

当日は、父兄会より河見忠雄父兄会幹事長、大学から今井久夫学長、大東道治学生部長、川本達雄教務部長、川合進二郎教授、森田章介教授、小谷順一郎教授が出席した。

午後1時から総会が開催され、父兄会幹事長・学長挨拶に続き、教務部長が学士試験の成績と国家試験対策について解説、学生部長が学内報告・アンケート集計結果を報告した。引き続き、学年指導教授とご父母が就学状況等について熱心に懇談した。

なお、当日の父母参加者は19名であった。



平成19年度 入学試験実施要項

本学が平成19年度に実施する入学試験の概要は、以下の通りである。

平成19年度推薦入学試験

- ・出願期間 平成18年11月6日(月)～11月17日(金)
- ・募集人員 28名
- ・出願資格 高校卒業見込みで、調査書の全体の評定平均値が3.8以上の者で、1校2名以内
- ・試験日 平成18年11月25日(土)
- ・試験科目 小論文および面接
- ・合格発表 平成18年12月13日(水)
- ・入学手続 平成18年12月20日(水)正午締め切り

平成19年度一般入学試験

- ・出願期間 平成19年1月10日(水)～1月29日(月)
- ・募集人員 100名
- ・試験日 平成19年2月4日(日)
- ・試験科目 数学・理科・外国語・小論文
 - ・数学(数学Ⅰ・数学Ⅱ・数学A・数学B)
 - ・理科(物理Ⅰ・物理Ⅱ, 化学Ⅰ・化学Ⅱ, 生物Ⅰ・生物Ⅱの3科目のうち、1科目を試験会場で選択)
 - ・外国語(英語Ⅰ・英語Ⅱ・リーディング)
- ・面接 平成19年2月5日(月)
- ・合格発表 平成19年2月13日(火)
- ・入学手続 平成19年2月20日(火)正午締め切り

平成18年度 科学研究費補助金交付 ならびに学内学術研究助成金交付

平成18年度の科学研究費補助金は新規に16件が採択され、継続分とあわせて29件、総額52,900,000円が交付された。研究種目別では、基盤研究(B)が2件(内新規1件)、基盤研究(C)が16件(同10件)、萌芽研究が継続1件、若手研究(B)が9件(同4件)、若手研究(B)(スタートアップ)が新規1件であった。

また、学術研究奨励助成金は12件で6,600,000円、共同研究助成金は3件で4,030,000円、口腔インプラント研究委託金は6件で3,000,000円が各々交付された。

平成18年度 科学研究費補助金採択者一覧

所 属	研究代表者	研究種目	研 究 課 題	助成額(円)
歯科理工	大島 浩	基盤研究(B) (継)	金属アレルギーの歯科検査を目指した基礎的研究	2,600,000
歯科理工	中村 正明	基盤研究(B)	高齢者にやさしい, マルチファンクショナルな義歯裏装材の開発	11,600,000
歯科保存	川本 雅行	基盤研究(C) (継)	歯科医学教材作成のための汎用3次元CGモデルライブラリの構築とその有用性の検討	1,200,000
口腔治療	好川 正孝	基盤研究(C) (継)	歯髄・象牙質複合体再生のための骨髄幹細胞による硬組織形成の培養補助剤と多孔質担体	1,100,000
口腔治療	至田 宗泰	基盤研究(C) (継)	菌体内毒素に対する水酸化カルシウムの有効性	800,000
歯科理工	橋本 典也	基盤研究(C) (継)	ナノテクノロジーを応用した歯科用バイオセンサの開発	1,500,000
歯科理工	今井 弘一	基盤研究(C) (継)	インジウムを含む歯科用合金の発生毒性リスクの検討	1,300,000
高齢歯科	樋口 裕一	基盤研究(C) (継)	レーザーアブレーション法(ナノテク)を用いたアパタイト超薄膜インプラントの開発	1,800,000
内 科	澤井 宏文	基盤研究(C)	サルチル酸ナトリウムによる破骨細胞分化制御メカニズムの解明	1,800,000
歯科保存	吉川 一志	基盤研究(C)	レーザーの色吸収特性を用いたう蝕の選択的除去	1,900,000
高齢歯科	岡崎 定司	基盤研究(C)	バイオミメティックマトリックスによるチタンインプラントの機能制御	1,300,000
欠損補綴	井上 宏	基盤研究(C)	歯の喪失はアルツハイマー型認知症の危険因子か? マイクロダイアリス法による検討	1,900,000
欠損補綴	前田 照太	基盤研究(C)	咬合支持の喪失が唾液中ストレスホルモンと免疫グロブリンに及ぼす影響	2,400,000
内 科	宮前 雅見	基盤研究(C)	歯科全身麻酔時の吸入麻酔薬による心筋保護効果におけるアポトーシスの関与の解明	1,800,000
薬 理	野崎 中成	基盤研究(C)	多能性歯髄幹細胞の可塑性を利用した再生に関する基礎的研究	1,800,000

ODU NEWS No.143

口腔病理	田中 昭男	基盤研究(C)	歯周組織の再生を誘導する新規コンビナント物質の探索と応用	2,000,000
口腔衛生	三宅 達郎	基盤研究(C)	8020達成者を対象とした歯の健康に関連する遺伝子多型のSNPs解明	500,000
口腔解剖	井辺 弘樹	基盤研究(C)	炎症時の下行性疼痛調整系におけるMAPK活性化の意義	1,900,000
歯科理工	中村 正明	萌芽研究(継)	自己組織誘導能を有する新規吸収性足場材料の開発	700,000
生理	井上 博	若手研究(B)(継)	NK細胞における細胞障害能を活性化するシグナル伝達機構の解析	900,000
口腔衛生	川崎 弘二	若手研究(B)(継)	エナメル質初期う蝕病巣の再石灰化に対する唾液タンパク質の影響	300,000
有歯補綴	田中 順子	若手研究(B)(継)	プロフェッショナルケアによるクラウンの二次う蝕予防プログラム作成	600,000
高齢歯科	田中 栄士	若手研究(B)(継)	食物認知が口腔期嚥下に及ぼす影響について	700,000
生化	合田 征司	若手研究(B)(継)	骨免疫に関与するT細胞活性化の解析	1,100,000
歯科理工	秋山 真理	若手研究(B)	細胞外環境、細胞接着および血管新生による新しい骨再生モデルの解明	1,900,000
有歯補綴	龍田 光弘	若手研究(B)	咬頭嵌合位における咬合接触の位置的・力的・時間的基準の確立	1,600,000
有歯補綴	今井 敦子	若手研究(B)	介護施設における食事選択システムの構築	2,800,000
高齢歯科	川本 章代	若手研究(B)	歯周組織の新生・再生を目的とした高分子多糖の応用	1,800,000
歯周病	田口洋一郎	若手研究(B)スタートアップ	歯周免疫における β -defensin-2の関わりと自然免疫活性化に向けての解析	1,300,000
合計29件 (内 継続13件)				52,900,000

平成18年度 大阪歯科大学学術研究奨励助成金一覧

所 属	氏 名	研 究 課 題	助成額(円)
口腔解剖 大学院2年	岡村 友玄	歯髄由来細胞の最適培養条件の確立	550,000
歯科保存 大学院4年	鈴木康一郎	All-in-one システムの歯質への接着	550,000
歯周病 大学院3年	寺田昌一郎	歯周免疫における抗菌ペプチド β -defensin-2 による自然免疫活性化の解析	550,000
歯周病 大学院4年	高橋 貴之	ラット骨欠損にエナメルマトリックスデリバティブ(EMD)を応用した際にみられる創傷治癒形態の観察	550,000
高齢歯科 大学院3年	坂井 大吾	糖尿病とデンタルインプラントに関する実験的研究	550,000
高齢歯科 大学院4年	楠 良子	骨粗鬆症ラット下顎切歯抜歯窩へのインプラント埋入に対するビスフォスフォネートの効果	550,000
欠損歯列 大学院3年	松野 彰仁	ラットの上顎可撤性義歯装着モデルの確立	550,000
口腔外科一 大学院3年	小川裕美子	T細胞におけるRANK 発現機序の解析 -破骨細胞分化に及ぼすT細胞の影響-	550,000
口腔外科一 大学院3年	岩井 理恵	口腔内細菌の β -lactam 薬耐性システムに関する研究 -とくに偏性嫌気性グラム陰性桿菌の β -lactamase について-	550,000
小児歯科 大学院2年	永田 幸子	歯髄多能性幹細胞の性状に関する基礎的研究	550,000
歯科麻酔 大学院3年	金田 一弘	全身麻酔時の揮発性吸入麻酔薬による心筋保護作用の細胞内メカニズムの解析	550,000
歯科麻酔 大学院3年	石川 素子	プロポフォール全身麻酔下における局所麻酔薬(lidocaine)の血管内吸収量の変化	550,000
合計12件			6,600,000

平成18年度 大阪歯科大学共同研究助成一覧

所 属	研究代表者	研 究 課 題	助成額(円)
歯科麻酔	小谷順一郎 他5名	咀嚼障害における高次脳機能のシステムの解明（継続）	1,350,000
口腔外科一	森田 章介 他13名	口腔前癌病変の癌化機序に関する分子病理学的研究（継続）	1,450,000
高齢歯科	小正 裕 他7名	発声を要する運動時のマウスガード装着による外傷防護（継続）	1,230,000
合計 3 件			4,030,000

平成18年度 口腔インプラント研究委託金採択者一覧

所 属	研究代表者	研 究 課 題	助成額(円)
有歯補綴	楠本 哲次	インプラント補綴装置における咬合接触状態の評価(継続)	500,000
歯 周 病	田口洋一郎	多血小板血漿 (PRP) を用いた骨再生における適用濃度の検索 (新規)	500,000
口腔外科一	森田 章介	生体材料と成長因子徐放システムによる歯槽骨造成に関する実験的研究およびトランスレーショナルリサーチ(継続)	500,000
口腔外科二	覚道 健治	多孔質性チタンインプラント埋入時の骨欠損部における顎骨造成過程に及ぼす多血小板血漿の影響 (新規)	500,000
内 科	堂前 尚親	歯科矯正治療用ミニインプラント脱離のメカニズムの解明ー力学的負荷が破骨細胞に及ぼす影響ー (新規)	500,000
生 化	鎌田 愛子	インプラント周囲硬組織再生へのスタチンの効果 (新規)	500,000
合計 6 件			3,000,000

平成18年度 備品調査

平成18年度備品調査は、8月28日に楠葉学舎、牧野学舎、歯科技工士専門学校および歯科衛生士専門学校、29日に天満橋学舎附属病院および歯科衛生士専門学校において法人役員、公認会計士立会いのもと今年度調査対象備品である802点について行いました。

調査に先立ち機器備品一覧表を各部署に配布し、機器備品の有無と常置場所の確認、備品シールの貼り付け状況、用品台帳、廃棄備品の有無等について事前に確認していただいていたましたが、常置場所の変更届を出していない備品、教授室に保管されていて当日教授が出張のため調査できなかった備品、ユニット予算で購入した備品では、シールが全く貼付されておらず、保管責任者が保持したままのものもありました。また、

シールの不鮮明なものや、備品はあるが梱包された状態のものもありました。修理中の備品は修理カードにより、シールを貼付できない備品はノートにシールを貼付して管理されていました。

全体的には円滑に調査を終えることができましたが、機器備品は金額の大小にかかわらず、大学の資産であるということを認識してもらうことが大切です。調査当日、一部の講座で立会人との連絡不足により調査員が戸惑ったこともありましたが、今後は備品調査に対する理解と準備が万全であることが望まれます。

調査に際しましては、各部署の立会人ならびに調査に携わっていただきました調査員の方々にお礼申し上げます。

平成18年度備品調査・調査部署および点数

調査部署	点数
講座・教室	189点
中央歯学研究所	38点
大学事務	149点
牧野学舎	3点
附属病院	384点
歯科技工士専門学校	17点
歯科衛生士専門学校	22点
合計	802点

第14回 公開講座（天満橋講座）

第14回大阪歯科大学公開講座(メインテーマ「口や歯の健康保持のために」)が8月19日から9月9日までの毎週土曜日に、本学天満橋学舎西館5階臨床講義室にて開講された。

最年少は13歳の中学生から最高齢は80歳の方まで延べ358名(第1週93名、第2週87名、第3週89名、最終週89名)の受講者が、猛暑のなかを毎週、熱心に足を運び学習する姿には頭が下がる思いであった。また、各講義のあとの質問でも「味覚の異常」、「歯周病予防」、「歯磨き方法」などとともに「再生歯科学」という最先端の質問もあり、市民レベルにおける歯科医療への関心の高さをあらわしていた。

最終日の受講者アンケートでは、「受講して良かった」との回答が多数寄せられ、本学公開講座が市民の皆さんに「歯の健康」というテーマを通して貢献して

いることがわかった。4週連続全講座出席の58名を代表して、77歳の男性に修了証書と記念品(第13回公開講座講演集)が今井久夫理事長・学長から手渡され、夏の天満橋講座は終了した。

なお、今回と同じテーマで平成19年2月17日から3月10日の毎週土曜日に枚方講座が、本学楠葉学舎講堂にて開催される。

第14回公開講座(天満橋講座)

日程	演題	講師
8月19日	歯がなくなったときには	更谷 啓治
8月26日	味覚がかわったときには	井関 富雄
9月 2日	口腔ケアをどうすればよいか	柿本 和俊 宮本美千子
9月 9日	歯周病と全身疾患とのかわり	今井 久夫



平成18年度 実験動物慰霊祭

平成18年9月19日(火)午後2時40分より、実験動物慰霊祭が牧野学舎動物塚において執り行われた。

多数の教職員、大学院生および学部学生が参列するなか清岸寺導師の読経が始まり、歯科医学の教育・研究のためにその身を捧げた動物たちの冥福を心より祈り、参列者一同順次焼香を行った。

最後に、今井学長から「本学における医学・医療の研究のために犠牲となった数多くの動物への感謝の念を忘れてはならない」との挨拶があり、参列者一同今一度、動物たちの御霊に対し合掌し、平成18年度実験

動物慰霊祭は無事終了した。

(出席者：教職員42名, 学生129名)



学位(博士)授与報告

- 小山和彦 乙第1471号 (平成18年6月28日)
Occlusal contacts in intercuspal position of prostheses without stress absorbing elements on osseointegrated implants (緩衝機構を持たない骨内インプラント補綴装置の咬頭嵌合位における咬合接触状態)
- 金 基燮 乙第1472号 (平成18年6月28日)
アルジネートをscaffoldした培養ヒト歯髓由来細胞の移植実験
- 上田明博 乙第1473号 (平成18年6月28日)
Cytocompatibility of osteoblast-like cells to fiber-sintered porous titanium (チタンファイバー多孔質体に対する骨芽細胞細胞様細胞の細胞適合性)
- 岩山陽子 乙第1474号 (平成18年6月28日)
咬合接触検査装置による咬合圧重心測定の信頼性ならびに反応性に関する研究
- 川上富清 乙第1475号 (平成18年6月28日)
光誘導蛍光定量法により観察した *in vitro*におけるエナメル質再石灰化に及ぼす各種フッ化物の影響
- 小室 崇 乙第1476号 (平成18年6月28日)
職域における歯科健康診査の受診回数と口腔保健状態との関連

中国学术交流の旅

< 四川大学創立110周年記念式典 >

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

【日 程】平成18年8月24日(木)~28日(月)

四川大学が創立110周年を迎え、記念式典への招待を受け、本学から今井久夫理事長・学長を団長に諏訪文彦教授(国際交流部長)、田中昭男教授(四川大学客座教授)、覚道健治教授(四川大学客座教授)、方 一如講師(国際交流部委員・中国渉外担当)、牧谷弘幸課長(庶務課)が出席した。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

四川大学は、昔から「天府の国」と呼ばれているすばらしい天候に恵まれた中国西南地区の科学技術、商業貿易、金融、交通、通信の要所である成都に位置している。1994年には成都科学技術大学、2000年には華西医科大学との2度にわたる「強強合併」により、中国有数の総合大学として更なる発展を続けている大学である。本学は、華西医科大学口腔医学院と1996年に学术交流協定を結んでおり、四川大学華西口腔医学院と校名を変更した現在においても、学术交流を継続している。

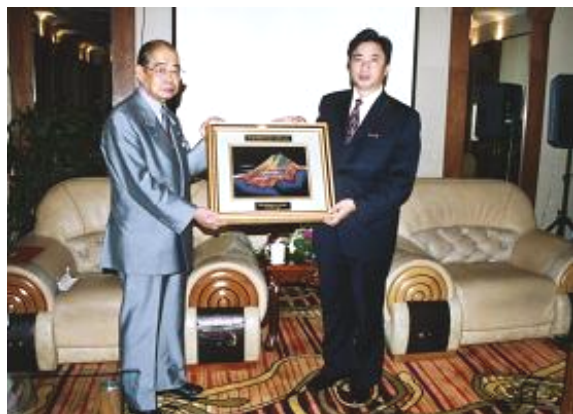
8月24日(木)に関西国際空港を飛び立ち、上海を経由して成都空港に到着したのは夕刻であった。翌25日には、宿泊先の家園国際酒店に四川大学の謝 和平校長、華西口腔医学院の龔 平、王 曉毅両副院長らが訪れ、ホテルの特別室において今井理事長・学長に四川大学名誉教授の称号が授与された。また、諏訪教授に客座教授、方講師に国際交流顧問の称号が授与された。今井理事長・学長から四川大学創立110周年を記念する祝詞が述べられ、謝校長からの返礼のあと懇談が始まり、記念品の交換、学术交流についての意見交換、本学への長期研究者派遣の要望、学生の交流など終始和やかな雰囲気で行われた。夕刻には、華西口腔医学院の周 学東院長も訪れ、ここでも和やかな雰囲気の中で学术交流について話し合われた。

26日(土)には、110周年記念行事の一環として四川大学江安校区水上报告厅で開催された“International Presidents Forum on UNIVERSITY DESIGN”に出席し、早稲田大学、米国インディアナ大学など世界の15大学の学長とともに今井理事長・学長も基調講演を

された。フォーラム終了後、華西口腔医学院を視察訪問し、田中、覚道両教授は共同研究で本学を来校したことのある旧知の先生方と再会され、暫し談笑し親交を温めていた。

27日(日)は、1万人を収容した四川大学江安校区体育館において四川大学創立110周年記念大会が開催され、現在の中国が持つエネルギーを強く感じつつ、今回の訪問の全日程を無事終了し、翌28日(月)今井理事長・学長を団長とする一行は帰阪した。

四川大学と本学の友情の絆がますます深まることを祈念し、四川大学の友に『発展』と『慶賀』の意を贈る。



<南方医科大学学术交流協定締結10周年記念式典ならびにFDI年次総会開幕式>

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

【日 程】平成18年9月21日(木)～24日(日)

本学と南方医科大学との学术交流協定締結10周年を記念する式典が南方医科大学で開催され、本学から今井久夫理事長・学長、諏訪文彦教授(国際交流部長)、田中昭男教授、方一如講師(国際交流部委員・中国涉外担当)、牧谷弘幸課長(庶務課)が出席した。また、一行は深圳市で開催されたFDI(Federation Dentaire Internationale=国際歯科連盟)2006年度年次総会の開幕式にも出席した。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

南方医科大学は、中国南海地区、香港とマカオに隣接する広東省における最大の商工業都市であり、対外貿易の港を有する広州に位置し、2004年に広州第一軍医科大学から現在の校名に変更されている。本学とは、1996年に学术交流協定を結んでおり、今年が協定締結10周年にあたる。

9月21日(木)、記念式典に出席する今井理事長・学長はじめ5名は広州に向け、関西国際空港を飛び立った。広州到着後、休憩する間もなく、直ちにFDI年次総会が開催される深圳市へと向かい、日本歯科医師会、



至而，モリタ，松風，吉田共催の“Japan Night”に出席した。

翌22日(金)には，南方医科大学で本学との学術交流協定締結10周年記念式典が開催され，南方医科大学からは鄭 木明校長，周 會恒副校長，鐘 世鎮工程院院士はじめ南方医院および珠江医院の院長等関係者が多数出席した。式典は鄭校長の歓迎の祝詞に始まり，続いて今井理事長・学長が本学の紹介を中心に20分間講演した。そのあと，懇談に移り研究者の派遣，学生交流などについて意見を交換した。研究者の長期派遣受け入れについては，本学の国際交流部委員会で検討中であること，また学生交流については今後の検討課題とすることを回答した。懇談終了後，鄭校長から今井理事長・学長に南方医科大学名誉教授，田中教授に同じく客座教授の称号が授与された。最後に記念品交換があり，南方医科大学から万里の長城を模した「長城雄風」と題する風景画，本学から輪島塗画「富士山」が相互に贈呈された。

夕刻，再び車で2時間かけて深圳市に向かい，9月22日から4日間深圳市で開催されるFDI2006年度年次総会の開幕式に出席した。

23日(土)，南方医科大学珠江医院に同院関係者との懇談および院内見学のため赴き，刘 瑞林副院長，肖



杜勤政治委員，才 曉慧口腔科主任ほか多数の病院関係者の出迎えを受けた。はじめに，刘 瑞林副院長の挨拶，今井理事長・学長の挨拶のあと懇談に移り，刘副院長から附属病院間での交流を図りたいとの要望が出されたが，本学附属病院での調整等も含め十分検討したうえで対応したいと回答した。見学では，珠江医院は建物，設備ともに歴史を感じさせるものであったが，患者数も多く，現在の中国の勢いを感じさせるように活気に満ちていた。なお，道路を隔てて2007年竣工に向け，新病院の建設が進められている。

今回の訪問日程は，珠江医院の見学をもってすべて終了し，24日(日)に今井理事長・学長はじめ一行は無事帰阪した。南方医科大学との更なる友好を祈念する。



人 事

昇 任

小児歯科学講座	講師	大東 希好
		H. 18. 7. 1付
口腔治療学講座	教授	林 宏行
生物学教室	講師	岡村 英幸
歯科保存学講座	講師	白石 充
	以上	H. 18. 8. 1付

職員採用

病院庶務課卒後研修担当	課長	神 光一郎
		H. 18. 8. 1付

依願退職者

口腔解剖学講座	講師	井辺 弘樹
		H. 18. 7. 31付

委 嘱

ブラッシュアップ委員会委員	楠本 哲次
	H. 18. 7. 13付
動物施設利用代表者会議委員会委員	相川 文子
	H. 18. 9. 1付

講師(非常勤)委嘱

大学院歯学研究科	
小児歯科学	本山 正治
	中井 浩司
	小川 慶知
	以上 H. 18. 7. 1付
歯科衛生士専門学校講師(非常勤)	大久保紀美子
	向 昭子
	以上 H. 18. 8. 1付

あとがき

—余談—

「寛而栗, 柔而立, 愿而恭, 亂而敬, 擾而毅, 直而温, 簡而廉, 剛而塞, 彊而義」。おまじないではありません。中国4000年の歴史の政治倫理「徳」を表す代表的な言葉で、内容は極めて簡明であり、「九徳」と呼ばれています。

一つひとつ見ていきましょう。

- 寛(かん)にして栗(りつ)
寛容だがしりやみがある。(逆)こせこせうるさいくせにしりやみがない。
 - 柔(じゅう)にして立(りつ)
柔和だが事が処理できる。(逆)とげとげしいくせに事が処理できない。
 - 愿(げん)にして恭(きょう)
真面目だが丁寧でつけんどんでない。(逆)不真面目なくせに尊大でつけんどん。
 - 亂(らん=乱)にして敬(けい)
事を治める能力があるが慎み深い。(逆)事を治める能力がなくせに態度だけはでかい。
 - 擾(じょう)にして毅(き)
おとなしいが内が強い。(逆)粗暴なくせに気が弱い。
 - 直(ちよく)にして温(おん)
正直・率直だが温和。(逆)率直にものを言わないくせに内心は冷酷。
 - 簡(かん)にして廉(れん)
大まかだがしっかりしている。(逆)何もかも干渉するくせに全体がつかめない。
 - 剛(ごう)にして塞(そく)
剛健だが内も充実。(逆)弱々しく内もからっぽ。
 - 彊(きょう=強)にして義(ぎ)
強勇だが正しい。(逆)気が小さいくせにこそこそ悪事を働く。
- 互いに矛盾することを併せ持つことでひとつの「徳」としているところが特徴です。九つすべてを充たせば「九徳」になります。すべて「逆」の人は「十八不徳」ということになりますが、こんな人がリーダーになれば最悪ですね。ちなみに、最初に引用した言葉は紀元前2000年以上前に中国最初の王朝とされる「夏」をひらいた名君禹(う)に対する家臣の臯陶(こうよう)の言葉です。(書経「臯陶謨(こうようぼ)」。この「九徳」は唐の時代の「貞観政要」や宋の時代の「近思録」にも登場し、もちろん日本にも多大な影響を与えています。

大阪歯科大学広報 第143号
 発行日 平成18年9月29日
 編集発行 広報委員会
 〒573-1121 枚方市楠葉花園町 8-1
 電話 072-864-3111